

日本鉄鋼協会記事

第 6 回 理 事 会

開催日: 2月18日. 出席者: 的場会長, ほか 41 名.

1. 昭和 46 年度事業報告, 収支決算ならびに財産目録の件

2. 昭和 47 年度事業計画, 収支予算の件

3. 次期理事, 監事ならびに評議員候補者推薦の件

4. 定款中一部変更の件

以上案通り承認され総会にはかることになった.

5. 研究委員解嘱委嘱の件

解嘱 鈴木 章君 (神戸製鋼中研)
板岡 隆君 (日本鋼管技術部)

委嘱 成田 貴一君 (神戸製鋼中研)
土岐 克之君 (日本鋼管技術部)

以上解嘱ならびに委嘱することに決定

6. 共同研究会規程中一部変更の件

7. 原子力部会内共通発明取扱規程制定の件

8. 特別資金運営委員会規程中一部変更の件

9. 石原・浅田研究助成金交付候補研究募集要領の件

10. 昭和 47 年度服部賞, 香村賞, 俵論文賞, 渡辺三郎賞, 渡辺義介賞, 渡辺義介記念賞, 西山賞, 西山記念賞および浅田賞各受領賞者決定の件

11. 昭和 47 年度重要技術研究費補助金交付申請の件

研 究 委 員 会

第 5 回委員会 開催日: 2月7日. 出席者: 盛委員長, ほか 20 名.

1. 石原・浅田研究助成金の応募要領, 選考内規について

2. 金属研究の将来計画について

などは継続審議事項であったが, 今回で結論を得た.

3. 基共研新部会の検討について

この件に関しては, 補助金・委託研究などを十分調査し, その適用範囲内でのテーマを取り上げるよう検討したいということで, 次回より本格的に審議することとなった.

4. 第 4 回技術講座小委員会報告

5. 基共研運営委員会報告

6. 基共研 47 年度予算

7. 溶鋼溶滓部会 46 年度シンポジウム報告

8. 「溶鉄溶滓物性値便覧」の発刊について

などの諸報告があった.

また今回から, 共研との連絡を密とするように, 伊木共研幹事長が出席することとなった.

編 集 委 員 会

第 12 回和文会誌分科会 開催日: 2月1日. 出席者: 松下主査, ほか 11 名.

1. 論文審査報告

10 件掲載可, 1 件修正依頼.

2. 第 58 年第 8 号論文選定について

論文 9 件, 技術報告 1 件, 技術資料 1 件を選定した.

第 12 回欧文会誌分科会 開催日: 2月23日. 出席

者: 橋口隆吉主査, ほか 11 名.

1. 5 件の論文について審査報告がなされた.

2. 委員よりの推薦と「鉄と鋼」58 年 2 号より 3 件の論文について投稿を勧誘することが決められた.

共 同 研 究 会

熱経済技術部会 JIS 熱勘定見直し分科会 開催日:

2月4日. 出席者: 設楽主査, ほか 10 名.

熱勘定方式関係の JIS 3 件 (JIS G 0702, 0703, 0704)

につき見直しを行なってきたが, その最終結論を得た.

3 件とも改正が必要であるとして, 逐条審議した結果にもとづき改正点を明示して工技院に報告することにした.

標 準 化 委 員 会

開催日: 2月7日. 出席者: 作井委員長, ほか 15 名.

1. 分科会の活動報告

各分科会主査または幹事から 46 年 4 月以降の活動状況報告が行なわれた.

2. 47 年度鉄鋼 JIS 制定・改正業務計画

工技院から 47 年度における新規制定, 改正, 廃止, 原案作成委託, 体系調査委託について説明が行なわれた.

3. JIS G 3303 ぶりきおよびぶりき原板改正案の審議

原板鋼種区分の明確化, 調質度の定義について問題となり, 分科会に持ち帰り検討することになった.

ISO 鉄鋼部会 開催日: 2月7日. 出席者: 豊田部会長, ほか 12 名.

1. 国際会議出席報告

1971 年に開催された SC 2, SC 3, SC 4, SC 8, SC 10 および SC 12 の国際会議について水野(協会), 青木(新日鉄), 清水(神鋼), 青木(新日鉄), 仁木(川鉄), 三佐尾(鋼管) 各氏から報告が行なわれた.

2. 各分科会活動報告

SC 1, SC 3, SC 4, SC 6, SC 7, SC 8, SC 9, SC 10, SC 12 の各分科会から活動状況報告が行なわれた.

3. 1972 年国際会議派遣会社の決定

本年開催が明確な SC 1, SC 3, SC 4, SC 9, SC 12, SC 6 および予想される SC 15, TC 67 の国際会議について事務局案を中心に検討を行ない, 派遣会社を決定した.

SC1 分科会 開催日：1月25日。出席者：川村主査，ほか6名。

1. 第6回国際会議派遣会社の決定

新日鉄，川鉄，鋼管の3社に決定した。

2. Cr 定量方法

N264 F に対する英文コメント案が承認された。

3. S 定量方法

共同実験結果のまとめが提出され，これをもとにコメント案を作成することになった。

4. Ni 定量方法

重量法 (N270 E)，吸光光度法 (N271 E) に対する実験結果について検討したが，さらに追試実験を行なうことにした。

5. ISO R の改訂について

Mn 定量方法に対する改訂要望が提案された。

SC 3 分科会 開催日：2月17日。出席者：青木主査，ほか7名。

1. 2月29日～3月3日開催の第2回 SC 3 国際会議に福原 (新日鉄)，小野田 (住金) の両氏が出席することになった。

2. 幹事国提案の 68 E (高降伏点鋼)，69 E (構造用鋼)，70 E (高降伏点形鋼) に対する各国コメントの比較検討を行ない，日本コメントを中心に，Fe 42 の復活，試験片の採取方向は L 方向，上降伏点の採用と数値の適正化などを重点に，会議にのぞんで貰うことにした。

機械試験法分科会，SC 6 分科会 開催日：2月1日，出席者：吉沢主査，ほか16名。

1. ISO R 148 鋼のシャルピー衝撃試験 (V ノッチ) の改訂

SI ユニットの採用，サブサイズ試験片の採用のための改訂であるので日本も賛成することにした。

2. シャルピー衝撃試験機の総合誤差の検査方法の検討

シャルピー衝撃試験機規格の参考として掲げることが前提として，ISO タイプ試験片を用いた検査方法について逐条ごとに検討を行なった。

SC 10 分科会 開催日：2月10日。出席者：郷原主査，ほか11名。

1. TC 11/SC 1 & TC 17/SC 10 の合同会議出席報告

郷原 (川鉄)，野村 (日鋼)，丸岡 (住金) の3氏から会議出席報告が行なわれた。

2. 合同会議審議項目に対する対策

審議された11項目に対する日本の態度を検討したが，とくに10万時間以上のクリープラプチャー，ステンレス鋼の1%耐力，高降伏点細粒鋼の高温特性などの諸データを早急にまとめることにした。

3. DIS 2604～2607 の検討

圧力容器用の鋼板，溶接管，継目無管，鍛鋼品案について検討を行なった。

れで当委員会の規程類は，委員会規程，内規および細則までが整備されたこととなる。標準試料として水素分析専用鋼2種の新規製造を予定しているが，今回を含め試験的に行なつた分析結果をもとに検討を行なっている。

鉄鋼標準試料の販路拡大の一幹としてこのほど新規製造鋼種，限定生産品種に関するアンケートをとつて市場調査を行なうことになった。とくに working standard をガス分析用として生産するかどうかについて討論されたが問題が重大であるのでもう少し煮詰めてから結論をだすことにした。

資料委員会

開催日：2月17日。出席者：草川委員長，ほか16名。

1. 草川委員長，訪欧報告。E. C. 5カ国がルクセンブルグに情報集配センターを作成し，各国語による情報提供を行なうとともに，コンピューターに関する研究も行なわれていると報告があつた。

2. 資料小委員会の報告の後，意見を討議し，協会としては，金属センサー作成について科学技術情報センターに働きかけ，協調体制確立への準備を進めるとともに，関係学会との協力体制をも築くことが必要である。そのため，センサー作成準備委員会 (仮称) を早急に発足させる必要があるであろうという結論に達した。

3. 資料委員会のあり方について，ドクメンテーションに関する認識も深まつてきた昨今性格を考えたらどうか。

次回，資料委員会のあり方について，再度検討し，進歩発展に努力することにした。

排煙脱硫試験委員会

第5回委員会 開催日：2月8日。出席者：豊田委員長，ほか11名。

排煙脱硫試験設備試運転経過報告ならびに第2期研究計画についての検討を行なった。

1. 試運転経過

1月より集塵機，ブローアなど部分的に試運転に入つたが，2月1日より水運転を開始した。設備点検と運転習熟などのため3日間ほど昼間運転を行ない，2月5日から3交替による試運転を始めた。

吸収液濃度が規定に達する2月半ばから排液を取り出し，子安地区における亜硫酸母液の酸化処理試験を開始する。

2. 第2期研究計画

現設備では，吸収排液は硫安製造により処理することとなるが，硫安の供給過剰の現状からみて，装置の本格稼動に際しては問題を含んでいる。したがって，用途の広い石膏生成法に関して，第2期共同研究として取り上げるかどうか検討を行なったが，結論は得られず次回に持ちこされた。

鉄鋼標準試料委員会

開催日：2月3日。出席者：池野委員長，ほか20名。前回より懸案となつていた内規細則が承認された。こ

鉄鋼基礎共同研究会

強度と靱性部会 第 18 回部会 開催日: 2月8日.

出席者: 荒木部会長, ほか 9 名.

今年度初めて関西地区で開催し, 大阪大学産業科学研究所 清水謙一教授を招き「マルテンサイト, ペイナイトならびにフェライトの組織とその特徴」というテーマで講演していただいた.

研究発表として,

1. 低炭素低合金鋼ペイナイトのモーフロジーとその靱性 (住金中技研 大森靖也)

2. 顕微鏡組織と破壊 (低Cから0.7C 鋼までの各種熱処理による組織と破面とその靱性の関係について)

(住金中技研 寺崎富久長)

の 2 件があり, 活発な質疑応答があつた.

予定されていた議題のシンポジウム打合せ, 特別研究費の使途内容打合せなどは時間の関係で春の講演大会中に行なうこととなつた.

新 入 会 員 名

(昭和 46 年 12 月 1 日~12 月 31 日現在)

正 会 員		学 生 会 員	
上田 浩士	(株)神戸製鋼所	池尾 一義	鉄鋼短期大, 鉄鋼工学科
梅木 正敏	〃 神戸製鉄所	小笠原信夫	横浜国立大, 工学部, 機械科
佐久間 均	〃 (鉄)開発部	高川 繁	秋田大, 鉱山学部, 金属材料学科
桜井 紘一	新日本製鉄(株) 君津製鉄所	豊田 剛治	名古屋大, 工学部, 金属学科
久保田正司	〃 名古屋製鉄所	森谷 徹	〃 〃 〃
藤原 成種	〃 堺製鉄所	中井 健	京都大, 工学研究科, 修士課程
小池 正夫	住友金属工業(株) 中央技術研究所	脇元 一政	〃 工学部, 冶金学科
宮川 清	〃 和歌山製鉄所		
佐藤 恒雄	日本冶金工業(株) 川崎製造所		
杉森 一太	〃 〃		
浅香 明雄	米喜バルブ(株) 研究開発部		
生田 勲	(株)日立製作所 日立研究所		
大久保 実	千代田亜鉛工業(株) 製鋼課		
大中 逸雄	大阪大学工学部 冶金学科助教授		
小川 和春	フォセコ・ジャパン・リミテッド		
北川 弘之	三菱重工(株) 広島造船所		
佐々木 滋	(株)三興製作所		
島 征行	日本鋼管(株) 技術研究所		
徳満 哲夫	日本ステンレス(株) 製鋼課		
野上 豊	佐世保重工業(株) 佐世保造船所		
橋本 賢一	(株)柏原機械製作所		
花井 圭介	(株)小松製作所 技術研究所		
福原 正夫	特殊製鋼(株)		
藤村 幸男	日本鋼線鋼索(株) 東京営業所		
松井 昭男	川崎重工業(株) 生産技術課		
宮瀬 明	三井造船(株) 玉野造船所		
山本 力	川崎炉材(株)研究所		
吉野 勇一	(株)日本製鋼所 室蘭製作所		
		呉 宗煥	浦項綜合製鉄(株)生産管理課長, SEOUL 特別市麻浦区合井洞361-32, 韓国
		Mr. Husni Bandjar, P.N. BARATA, DJL. NGAGEL, Indonesia	

(昭和 47 年 1 月 1 日~1 月 31 日現在)

正 会 員		神 野 久 喜 (株)神戸製鋼所		峰 久 允 (株)神戸製鋼所	
佐藤 孝	川崎製鉄(株)		加古川製鉄所		加古川製鉄所
角山 浩三	〃 千葉製鉄所	木口美登志	〃 〃	森 和俊	〃 〃
橋口 耕一	〃 技術研究所	高野 正義	〃 〃	矢野 篤夫	〃 〃
竹井 典夫	〃 〃	汐田健一郎	〃 〃	大西 功一	〃 中央研究所
西 博	〃 西宮工場	島田 征典	〃 〃	沖本 憲一	〃 〃
渡部 誠	〃 〃	杉山憲太郎	〃 〃	阪本 績	〃 〃
館野 次郎	〃 〃	世古口俊明	〃 〃	山形 敏明	〃 〃
林 忠男	〃 水島製鉄所	辻 雅俊	〃 〃	結城 正秀	〃 〃
吉越 成光	〃 技術開発部	原田 一良	〃 〃	川口 康信	〃 鉄鋼事業部開発室
安封 淳治	(株)神戸製鋼所	細田 卓夫	〃 〃	長谷川豊文	〃 〃
	加古川製鉄所	細谷 隆司	〃 〃	佐藤 始夫	〃 浅田基礎研究所
		松岡 雅典	〃 〃	手崎 宗昭	〃 明石工場

池田 仁	新日本製鉄(株)	倉田 豊	特殊製鋼(株)技術部	渡部 啓二	昭和石油(株)
	光製鉄所	吉松 昭夫	〃 〃		中央技術研究所
酒井 隆行	〃 〃	小畑 敏雄	(株)日立製作所	学 生 会 員	
南野 繁	〃 〃		亀有工場	小原 文雄	秋田大, 鉱山学部, 金
山本 普康	〃 〃	佐々木昌人	〃 〃		属材料学科
井上 泰	基礎研究所	坂本 達事	〃 機械研究所	加藤 茂太郎	〃 〃 〃
内村 光雄	〃 〃	松坂 矯	〃 日立研究所	菅原 康夫	〃 〃 〃
榎戸 恒夫	〃 〃	田中 功	大同製鋼(株)	西田 光一	〃 〃 〃
井上 俊朗	名古屋製鉄所		中央研究所	前田 正治	東北大, 工学部, 金属
梶 哲雄	〃 〃	江川 修	〃 知多鍛造工場	谷内 和人	材料工学科, 大学院
地野 茂	〃 〃	足立 義之	(株)東洋金属熱処理研		〃 金属材料研究所
田辺 康見	製品技術研究所		究所寝屋川工場		大学院
寺田 雄一	堺製鉄所	安部 勝	東京ニッケル(株)	山口 忠政	〃 工学部, 大学院
伊藤 六彦	八幡製鉄所		松阪工場	太田 明男	名古屋大, 工学部, 鉄
斎藤 昇	住友金属工業(株)	伊藤 和夫	東京金属(株)設計部		鋼工学科
	和歌山製鉄所	石川 清	三菱製鋼(株)	竹内 信夫	〃 〃 〃
矢村 隆	〃 〃		宇都宮製作所	植木 弘満	北海道大, 工学部, 金
山下 良一	〃 〃	奥野 昭宏	東洋工業(株)		属工学科
川崎 守夫	中央技術研究所		材料研究部	加藤 和正	〃 〃 〃
西岡 邦夫	〃 〃	梶野 利彦	鈴鹿工業高専	野村 良樹	九州工業大, 金属工学
井上 睦夫	鋼管製造所		金属工学科講師		専攻, 大学院
堀 昭	製鋼所	梶原 一成	日立造船(株)	太田 幸夫	名城大, 理工学部, 機
市之瀬 弘之	日本鋼管(株)	川嶋 朝日	東北大学		械工学科
	技術研究所		金属材料研究所助手	外 国 会 員	
今井 甲一	〃 〃	本多 文洋	〃	Mr. Akio Fuwa, Stanford Univer-	
小林 学	〃 〃	酒井 拓	電機通信大	sity, USA	
西田 倂輔	〃 〃		機械工学科助手	Mr. Deshmukh S. Gajanan, Mu-	
角谷 昭	技術部	榊原 二郎	東工物産(株)	kand Iron and Steel Works,	
中沢 尚次	〃		常務取締役	India	
岩館 忠雄	(株)日本製鋼所	辛 玟教	韓国海洋大学助教授	Mr. Emery Pierre, Institute de	
	室蘭製作所	永井 武	(株)富士通研究所	Recherches de la Sidérurgie,	
戸田 陽二郎	〃 〃		材料研究部	France	
三浦 立	〃 〃	林 享三	住友電気工業(株)	金 商 周 ソウル大学校, 工科大	
村田 政司	〃 〃	福島 捷昭	日立金属(株)安来工場	学, 金属学科, 韓国	
木谷 茂之	特殊製鋼(株)技術部	松本 四郎	アイコー(株)		
			奈良製造所		